

くろい えきしゅうへん だいにき
黒井駅周辺地区(第二期)
 (新潟県上越市)

- 計画期間 平成23年度～平成27年度
- 面積 722ha
- 交付対象事業費 445.8百万円
- 市人口 188,382人

- ポイント**
- ・ 鉄道とコミュニティバスの連携による交通結節機能の強化
 - ・ 地域資源を活かした誘客促進による地域の活性化

地区概要 黒井駅の駅前広場と自由通路整備、市道整備等のほか、希少な軽便鉄道等の地域資源の整備・活用により、交通便利性の向上を図り、暮らしやすいまちを創出する。

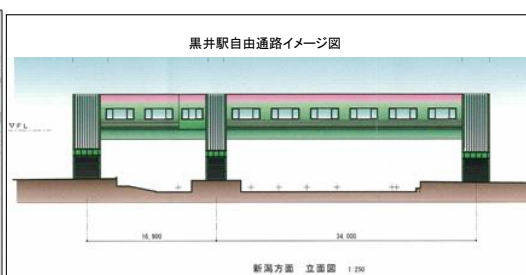
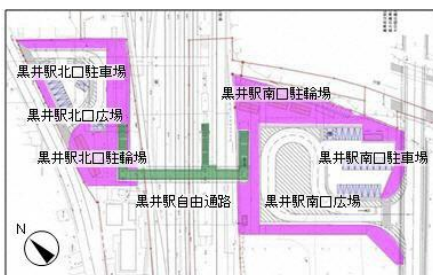
目標 黒井駅を拠点とした駅周辺の一体的整備による交通便利性の向上と暮らしやすいまちの創造。

指標 駅への交通便利性の向上や交通結節点としての機能強化や安全・快適なまちづくりの成果、地域資源を活かした誘客促進による地域の活性化を目標とした。

| 指標名 | 現状値 | 確定値 |
|--------------|----------------|--------------|
| 黒井駅の乗降客 | 500人/日 (H21) → | 611人/日 (H27) |
| 地域住民の満足度(生活) | 34.6% (H22) → | 62.8% (H27) |
| 施設の入込数 | 2,749人 (H21) → | 3,695人 (H27) |

事業内容 基幹事業 (427.5百万円) → 駅前広場 (2カ所、4,160㎡)、自動車駐車場 (2カ所、980㎡)、自転車駐車場 (2カ所、550㎡)、駅自由通路 (幅員3m、延長52.5m)、情報板 (5基)

提案事業 (18.3百万円) → 軽便車両動態復元、事業活用調査、地域資源回遊ルート整備



凡 例

| | |
|---|-------------|
| | 事業区域 |
| | 基幹事業 |
| | 提案事業 |
| ● | 主な見どころ、施設など |
| | 回遊エリア |
| | 関連事業 |
| | その他主要プロジェクト |

地区の現況と課題

黒井駅周辺の地区は、信越本線により南北に分断されており、駅舎が線路の北側にあることから、駅利用者並びに南北の連絡交通は駅構内直江津寄りにある西福島踏切を渡るしかないのが現状である。鉄道によって分断された地域の一体化を図り、安全な歩行空間を確保するとともに、バス及び鉄道の利用促進と、公共交通機関の有機的な連携等による交通結節点としての機能を強化する必要がある。

生活環境面では、人口集中地域の一角に位置する住宅団地内市道は、整備後 40 年以上が経過しているため、道路側溝の老朽化が著しく、溜り水や悪臭の問題が発生しており、快適な生活環境の向上を図るため、側溝改良等により住宅団地内の道路網の早期改良が必要となっている。

また、地区内に点在する軽便鉄道（旧頸城鉄道）の蒸気機関車「コッペル」や樹齢 400 年と言われるしだれ桜の巨木等、魅力ある地域資源が活かされていないとの第一期計画の反省を踏まえ、それらを活用した交流拡大を進め、地域の活性化や公共交通の利用促進に結び付けていく必要がある。



▲ 北口広場の現状



▲ 整備後の北口広場



▲ 駅北口と南口を結ぶ自由通路



▲ 南口広場の現状



▲ 整備後の南口広場



▲ 設置したルート情報板

提案事業の特徴

希少軽便鉄道車両動態復元等事業

希少な軽便鉄道車両を修復、復元することにより、地域の人々や米穀などの輸送を担い、生活や産業を支えてきた頸城鉄道により発展してきた上越地域の歴史に触れる機会を提供する。



▲ 動態復元した軽便鉄道車両

計画策定プロセス

パブリックコメントによる意見の集約

自由通路の整備に関して、パブリックコメント（市民意見提出制度）を実施し、整備する施設等について広く市民の意見を求め、施設の整備内容に反映させている。

ユニバーサルデザインの検討

駅周辺施設の整備においては、高齢者や障害者等が安全かつ快適に利用できるように配慮した整備を進めるため、高齢者や障害者、事業者、学識経験者、関係行政機関の職員などからなる人にやさしいまちづくり推進会議で検討し、視覚障害者誘導ブロックの設置といった基本的な内容のほか、手すりの材質、階段端部の処理まで細かな検討を行った。

庁内計画関係課による検討

第一期計画の事後評価にあわせ、今後のまちづくり方針にかかる検討を行った。